

豊前中学校基本設計の概要

- 1 外 観
- 2 全体配置計画
- 3 『学びの森』
- 4 校舎平面計画
- 5 建設計画

豊前中学校の目指すところは、最新の施設設備の中で子ども達が互いに磨き合い自分の進路・夢を実現することです。

その目標を達成することができるような施設にしたいと考え基本設計を行いました。

本スライドでは、5つの項目について説明します。

1. 外観について
2. 学校敷地全体の配置計画について
3. 校舎設計のコンセプト「学びの森」について
4. 校舎平面計画をもとに、校舎内のつくりについて
5. 今後の事業スケジュールについて



外観についてです。

校舎外観は、ブラウンを基調に縦のラインをいれて全体としてアカデミックな雰囲気に仕上がっています。

従来の小中学校といえば窓が1教室分横に繋がっているつくりが一般的でしたが、豊前中学校では壁と窓を交互に配置しています。

これは、デザインのためだけではなく、窓面積を減らすことで建設費を抑えるとともに、断熱性を上げ夏冬の暑さ寒さを和らげ環境負荷を軽減するためでもあります。

体育館も同様に、窓をほとんど設けないうつくりになっています。

窓がないと夏の暑さ対策が心配になりますが、温度・湿度調整・換気用のエアコンが設置されます。



学校全体の配置計画についてです。

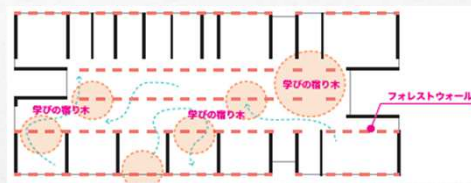
旧築上中部高校跡地は、県道に沿って南北に広がっています。
市道をはさんだ北側は、新たなスポーツゾーンとして活用します。
ここには、4面のテニスコートと旧旭桜会館を改修した部室棟を整備します。テニスコートは、オムニコート仕様で作るため、少しの雨でも使用できます。
旭桜会館北側敷地（現在グラウンドゴルフとして使用している土地）は駐車場として整備し、学校施設を地域開放した場合にも寄り付きやすくします。

敷地南側には、広々としたグラウンドを整備します。
グラウンドはほぼ正方形に近いので、野球部、ソフトボール部、陸上部などの運動部が十分に活動できる広さを確保します。グラウンドの西側には、陸上部のためにタータン仕様の直線コースを作り、多少の雨でも練習できます。
文武両道を目指す豊前中学校では、部活動にも力を入れられる環境を整えます。

中央部は県道に向けた大きなオープンスペースを整備します。
県道に面した中央と南側には、新たに東側校門と南側校門を設け、出入りしやすくします。東側校門を入ったところには、生徒や地域住民の交流空間となる緑豊かで快適な空間をつくり、街に潤いを与え活気ある学びの環境をつくります。

校舎棟は体育館と一体化してコンパクトにまとめます。
コンパクトにまとめることで建設費を削減と、将来的に小学校を増築する計画となった場合の敷地を確保することができます。

コンセプト 『学びの森』



教室だけでなく、学校中が学びの舞台となるよう、空間を柔らかく区切る「フォレストウォール」を骨格とした学校を計画します。フォレストウォールはただの間仕切りではなく、時にはプレゼンウォールとして、時には掲示板として役割を変化させながら学びの宿り木として機能します。



コンセプト「学びの森」についてです。

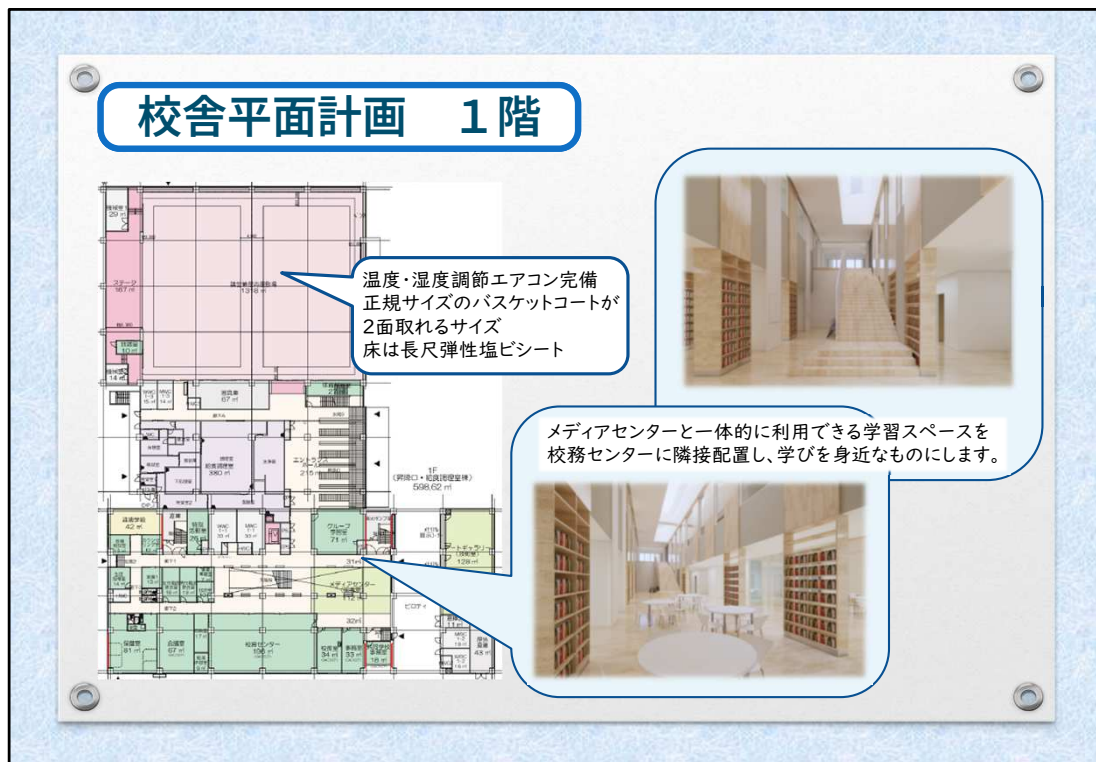
「学びの森」というコンセプトは、教室だけでなく校舎内がどこでも学びの場となるように、と考えられたものです。

この校舎では、教室等諸室以外の廊下やオープンスペースを広く確保しています。

その広い空間を「フォレストウォール」と呼ぶ仕切りで柔らかく区切り、学びのスペースを各所に設けています。

こうした空間をつくることで、教室以外にも学習内容・学習形態に応じた学習の場を設けることができます。

教室は勉強するところ、廊下は通行するところ、という決まった概念にとらわれずに、目的に応じた活用ができるように設計しています。



校舎内のつくりについてです。

1階には、中央階段を下りたところに広くメディアセンターを配置します。全校生徒が行き来するこの場所に、多くの書架を森の木々のように配置して学びの雰囲気を作り出し、学びを身近なものにしています。

また、グループ学習室を隣接して設け、本と同時にタブレットPCやICT機器を活用して個別学習を行ったり、他の中学校や交流先とサテライト学習ができるようにします。広いスペースの各所には、イスやテーブルを配置し、授業時間以外でも気軽に腰を下ろして学べる環境をつくれます。休み時間や放課後に友達と机に向かい、教え合いながら学習する姿を期待しています。

体育館には、温度・湿度調節エアコンを完備しており、正規サイズのバスケットコートが2面つくれる大きさで設計しています。床は木質フローリングではなく、国際大会レベルの競技場にも使用される長尺弾性塩ビシート素材を貼っており、転倒しても怪我をし辛く、メンテナンスが簡単なものとなっています。

校舎平面計画 2～4階

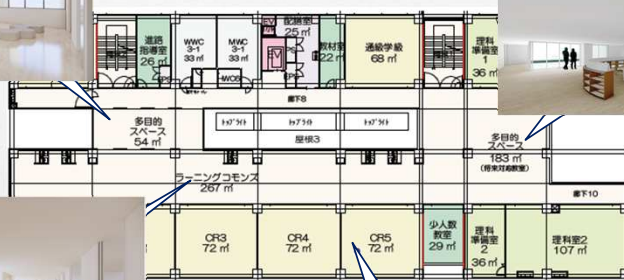


多目的スペース
休憩時間にくつろげるスペースにもなります。

サテライトメディア
関連した図書を開架する円形書架と閲覧スペースを設け、自発的な興味を促し主体的な学びへと導きます。



ラーニングコモンズ
広々とした廊下でグループ学習ができます。



教室

2階から4階には、各学年の教室と特別教室を配置します。

教室は、窓面積を少なくし、フィックス窓と少し開く縦滑り窓で構成しています。

どの教室、特別教室にもエアコンが完備され、機械システムにより強制的に換気を行うので、感染症対策も問題ありません。

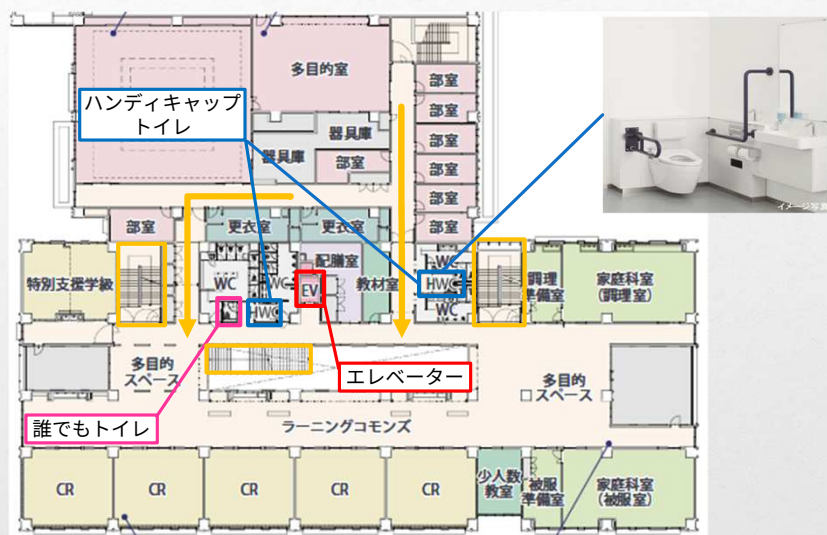
教室前の廊下は、ラーニングコモンズと言い、グループ学習に活用できる広々とした空間を確保しています。

校舎の東西にある広い多目的スペースには円形書架と閲覧スペースを設置しており、ちょっと本を手にとって座って読むことができるつくりになっています。

休憩時間に友達とくつろげるようなソファやベンチも各所に設置しています。

このラーニングコモンズや、多目的スペースにもエアコンが設置されていますので、暑い時期、寒い時期でも快適な学習空間となります。

校舎平面計画 安全・安心への配慮



安全・安心への配慮についてです。

バリアフリー、多様性への配慮、避難安全の視点から設計を進めています。

バリアフリーへの視点については、ハンディキャップトイレを1階に2か所、2階に2か所、3階・4階に1か所ずつ設けています。

エレベーターは、校舎の真ん中でどちらにも行きやすい場所に設置しています。

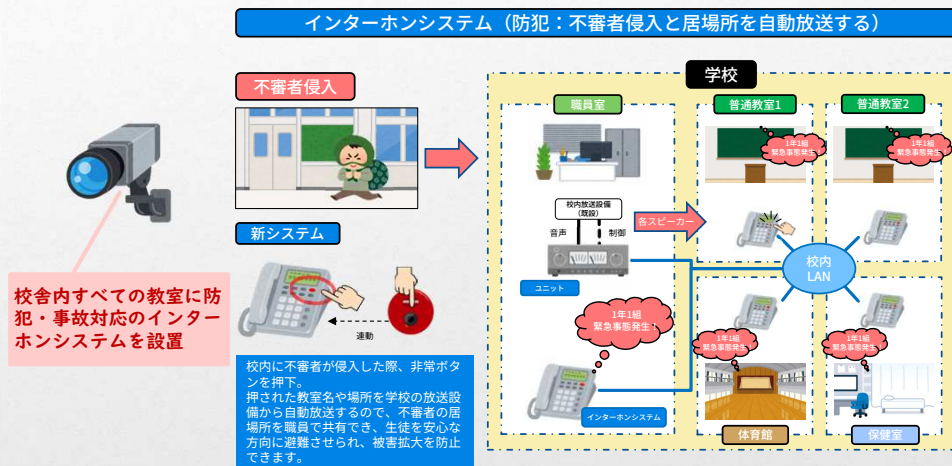
多様性への配慮として、性別にかかわらず誰もが使いやすい誰でもトイレを、各階に1か所ずつ設けています。

ハンディキャップトイレや誰でもトイレの入り口には、ピクトグラムによる案内表示を設置して子どもたちの理解を促します。

避難安全の視点として、生徒の集中し易い2階には階段を3か所（東西と中央）、3・4階には2箇所（東西）設け、近い所からの避難が可能です。

特に2階は、部室や更衣室、武道場などが入り組んでいるため、避難時に行き止まりで逃げ場がなくならないよう、回遊できる通路を設けています。

校舎平面計画 安全・安心への配慮

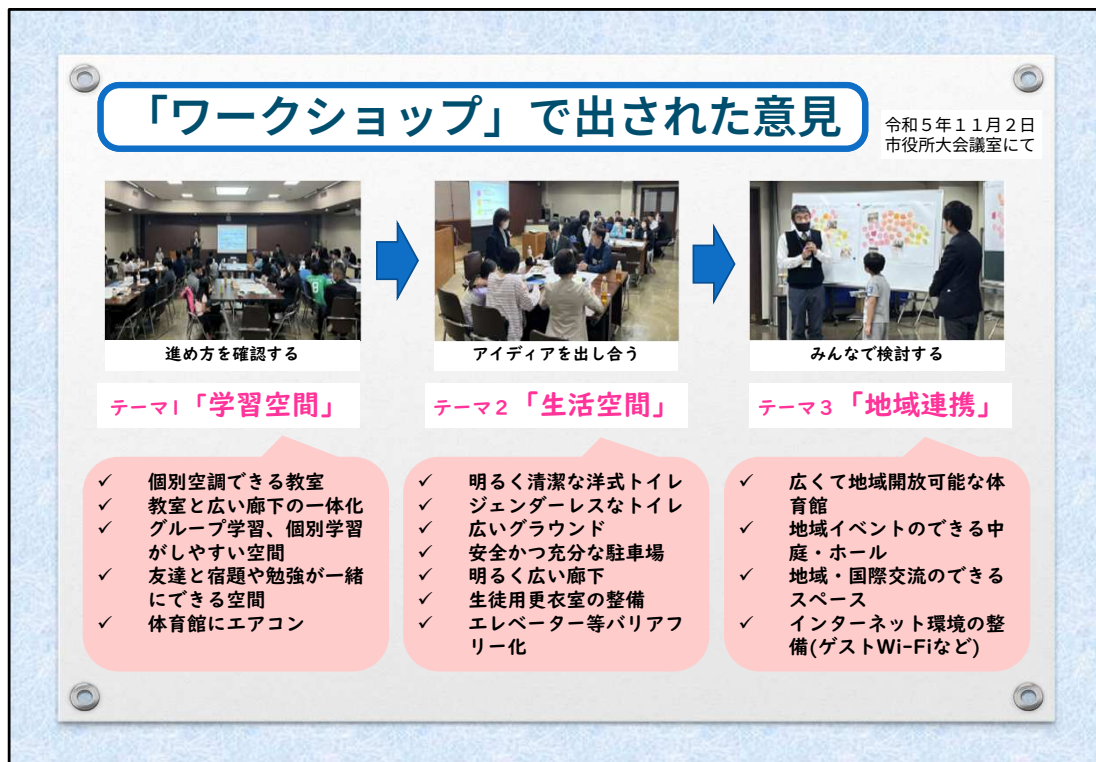


防犯や事故にすばやく対応するため、インターホンシステムを導入します。

これまでの非常ベルでは、事件や事故が起こったことはベルで分かりますが、どこでなにが発生したのかがわかりませんでした。

今回導入するシステムでは、事件、事故の現場でインターホンの緊急ボタン、または非常ベルを押すと、不審者のいる場所や、事件、事故の発生場所を瞬時に全校に知らせることができます。場所がわかれば、教職員がすぐに駆け付けたり、子どもたちを安全な方向から素早く避難させたりできるようになります。

このインターフォンは、校内放送とも連動していますので、どこからでも、一斉校内放送が可能です。瞬時に全校に情報を共有することができます。



基本設計をすすめるにあたり、子どもや保護者、地域の方を対象に、昨年11月2日にワークショップを行いました。
ワークショップでは、三つのテーマを参加者の皆様に話し合っていました。その中でまとめられた意見を紹介します。

テーマ1「学習空間に関する希望」について

「個別空調できる教室」「グループ学習、個別学習がしやすい空間」「友達と宿題や勉強が一緒にできる空間」「体育館にエアコン」

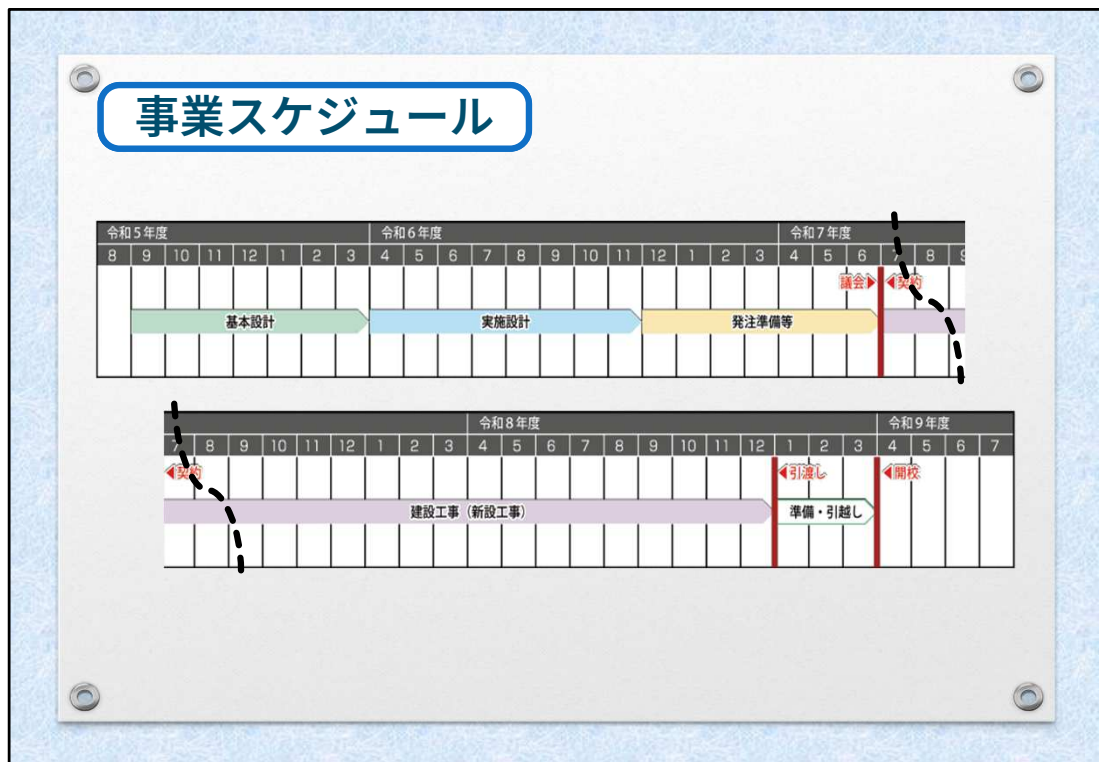
テーマ2「生活空間に関する希望」について

「明るく清潔な洋式トイレ」「ジェンダーレスなトイレ」「明るく広い廊下」「生徒用更衣室」

テーマ3「地域連携に関する要望」について

「広くて解放可能な体育館」「地域イベントのできる中庭やホール」「地域交流・国際交流などができるスペース」「ゲストWi-Fiなどインターネット環境」

これらのご意見全てではありませんが、できる限り設計に取り入れています。



事業スケジュールについてです。

年末から来年度初めにかけて発注準備に入り、入札を行って請負業者を決め、議会の承認を得てから契約となります。

予定通りに進めば来年度7月頃から建設に着手し、およそ1年半の工期を経て完成の予定となります。

その後、現在の3中学校からの引っ越しを行い、令和9年4月に開校する予定です。